

情報革命で人々を幸せに



2023年12月

ソフトバンクグループ株式会社(東証プライム市場 9984)

1

会社概要

2

FY23上期業績

3

アームのIPO

4

AI投資

5

財務戦略

6

サステナビリティ

会社概要

(2023年3月末)

商号	ソフトバンクグループ株式会社
設立年月日	1981年9月3日
本社所在地	東京都港区海岸1-7-1
代表取締役会長 兼 社長執行役員	孫 正義
連結従業員数	約6.3万人
証券コード	東京証券取引所 プライム市場(9984)
単元株式数	100株

株価 6,019円

時価総額 8.8兆円

格付 (長期発行体格付)

日本格付研究所 (JCR) A-

S&P BB

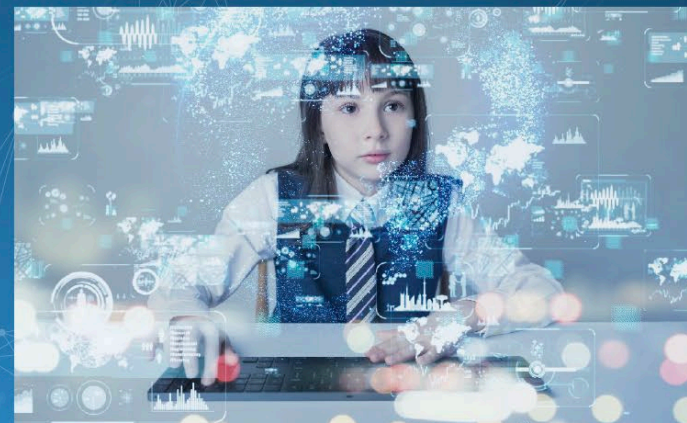
※ 株価および時価総額:2023年12月21日時点



経営理念



情報革命で人々を幸せに



ソフトバンクの事業変遷ーグローバルな投資持株会社に

変わらぬビジョン:「情報革命で人々を幸せに」

事業会社

投資持株会社

孫正義がソフトバンクを立ち上げ。名前の由来は「ソフトウェアの銀行」



PCソフトの卸売業
1981年創業



パソコン時代の到来

1996年:ヤフー事業開始
2000年:アリババへの投資



インターネット・ブロードバンド事業
1996年～2005年



日本のブロードバンドの普及をサポート

2001年:Yahoo! BB
ADSL事業開始
2004年:日本テレコム買収



2005年:
ホークス買収



2008年:
iPhone発売
(日本初)

2006年:
ボーダフォン
ジャパン買収

SoftBank



Sprint

2014年:
アリババグループ
上場



2013年:
米国スプリント
買収

Sprint

2016年:
英国半導体設計大手
アーム買収

arm

2018年:
SBKK上場

2017年:SVF1始動
2019年:SVF2始動

2023年: Arm
ナスダックに再上場

arm

2020年: スプリント、
T-モバイルと合併

Sprint / T-Mobile

モバイルブロードバンド
2006年～2014年



モバイル事業を通じて生活を豊かに

Data and AI
2015年以降



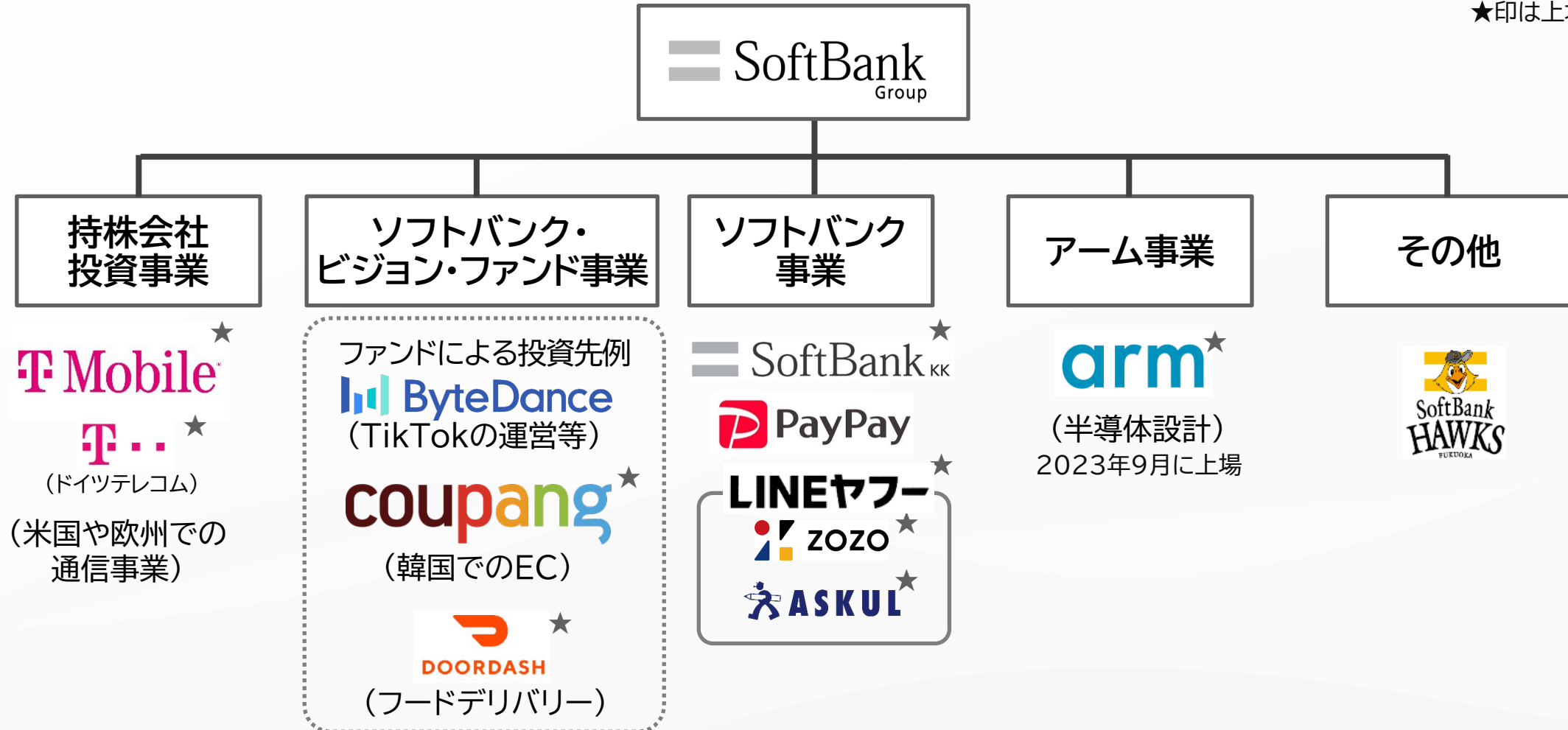
AI革命の実現に向けて

SBKK:ソフトバンク SVF:SoftBank Vision Fund

事業セグメントおよびグループ企業

幅広い業種・地域に展開する企業群

2023年10月1日現在
★印は上場企業



当社の成長戦略

投資サイクルを繰り返しながらNAVを拡大

IPOはあくまで企業の成長の通過点

一方、価値の顕在化および資金化の柔軟性を高めるうえで有効



1

会社概要

2

FY23上期業績

3

アームのIPO

4

AI投資

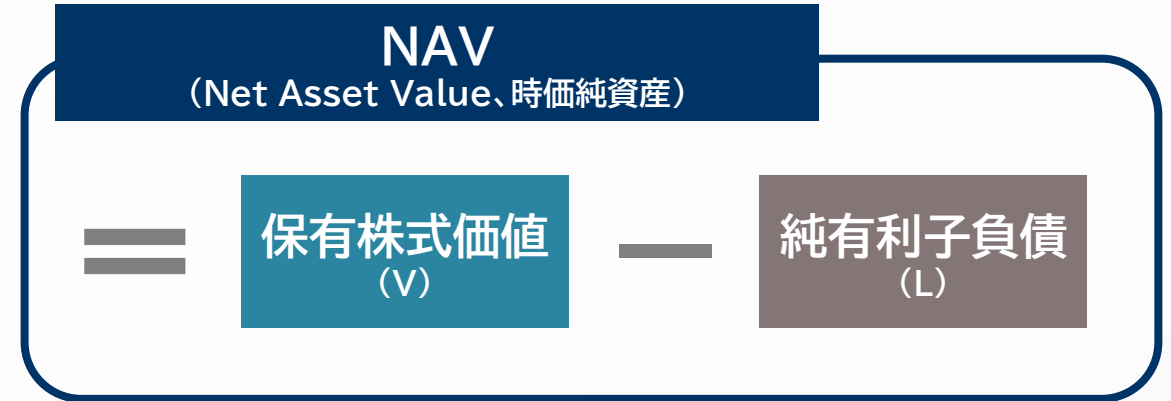
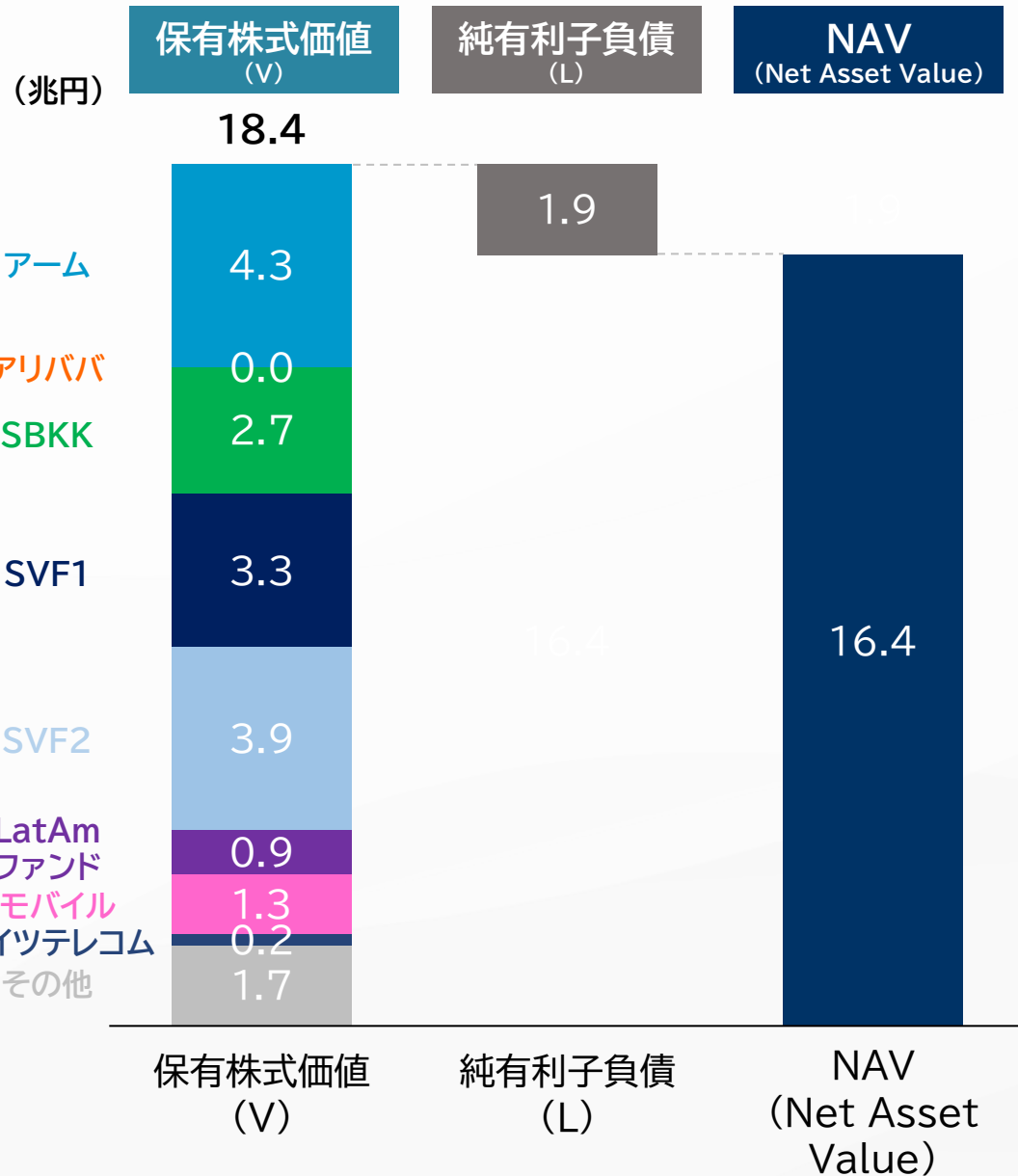
5

財務戦略

6

サステナビリティ

NAV・LTV



重要指標の変動 (2023年度Q2)

2023年6月末

2023年9月末

NAV
(時価純資産)

15.5兆円

16.4兆円

LTV
(純負債 / 保有株式価値)

8.0%

10.6%

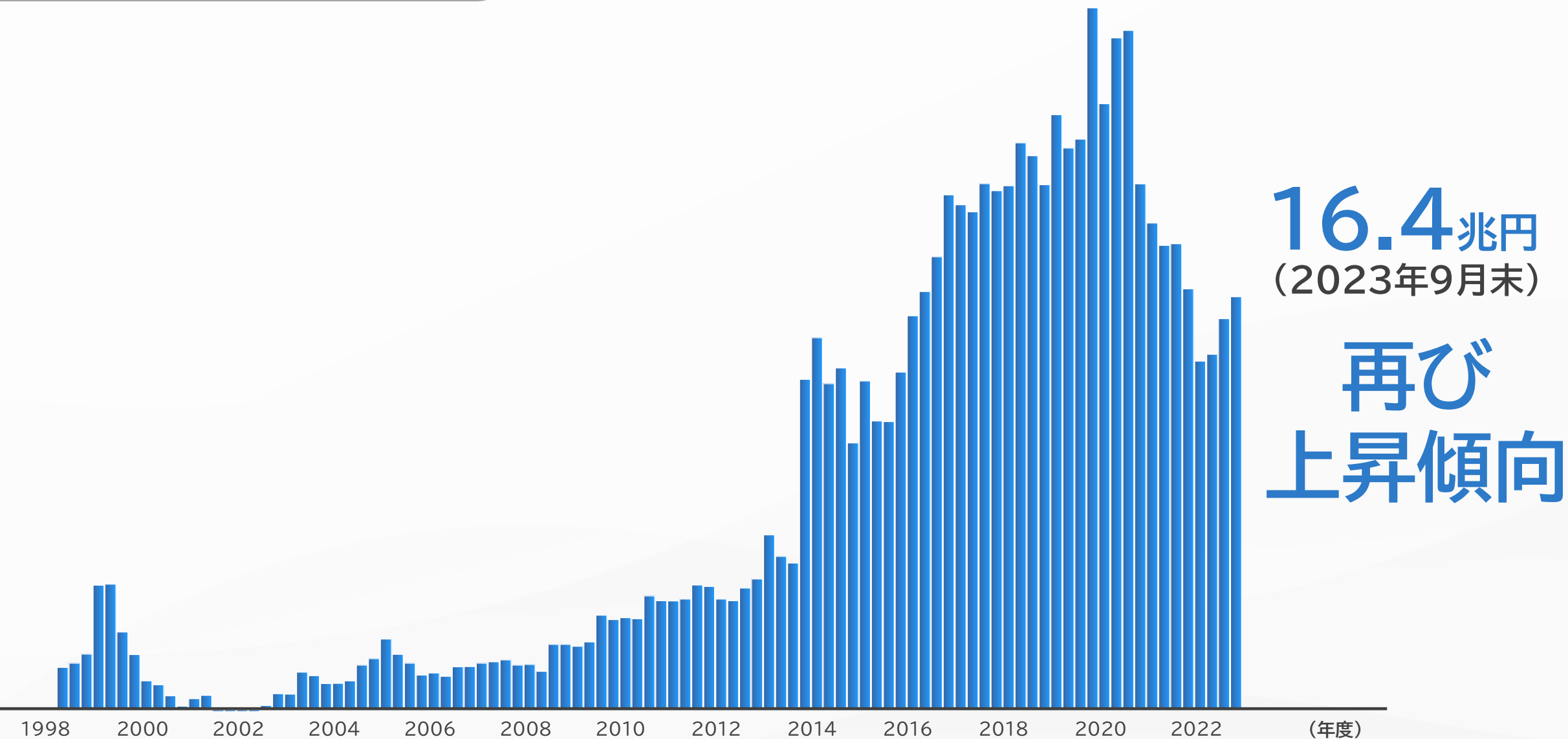
手元流動性

5.8兆円

5.1兆円

NAVおよびLTVの詳細は、Appendix「NAV・LTVの定義及び算出方法(2023年6月末時点)」 「NAV・LTVの定義及び算出方法(2023年9月末時点)」を参照
手元流動性 = 現金及び現金同等物 + 流動資産に含まれる短期投資 + 国債投資 + コミットメントライン未使用枠。SBG単体ベース(SB Northstarを除く。ただし現金及び現金同等物は含む。)

NAVの推移



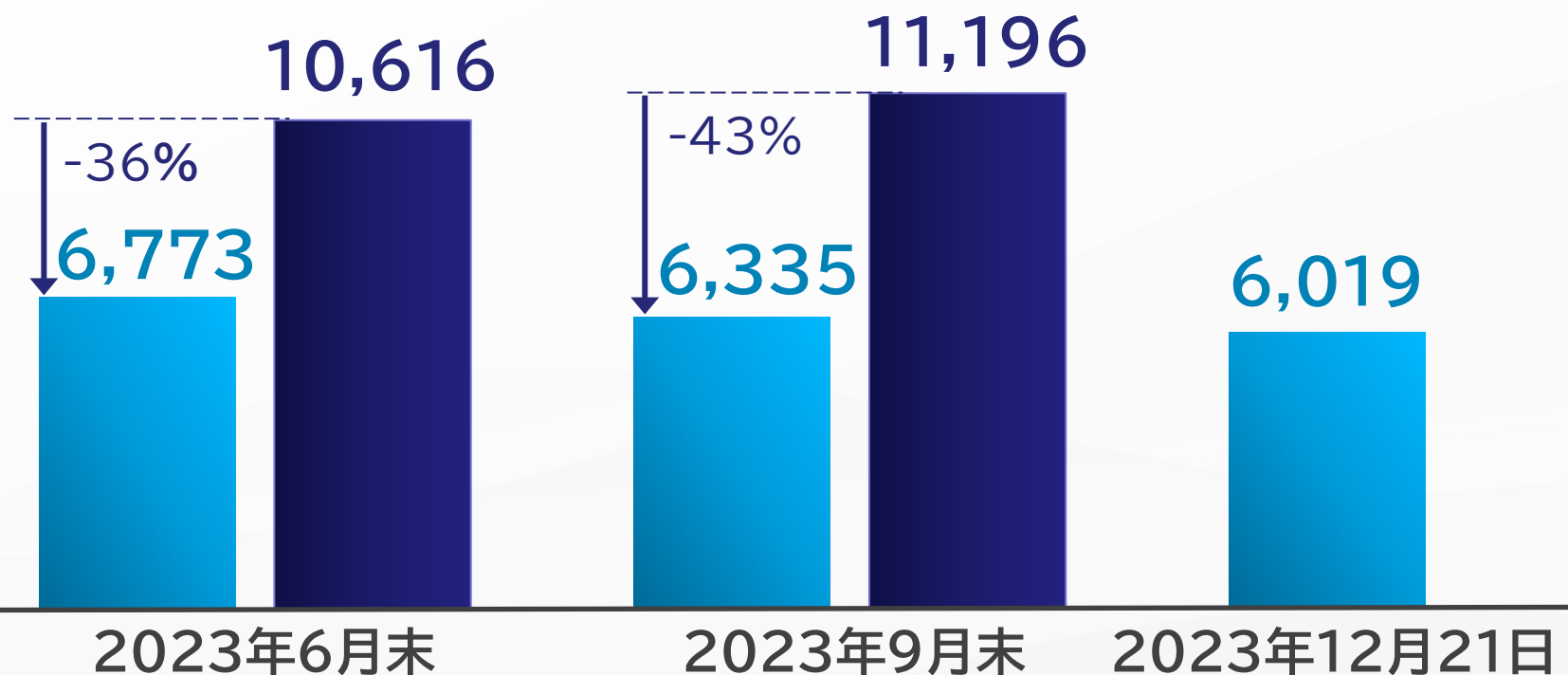
各四半期末時点
NAVの詳細は、Appendix「NAV・LTVの定義及び算出方法(2023年9月末時点)」を参照
NAVに関する情報は、推移のイメージを説明する目的で提供される参考値であり、将来のNAVを保証・示唆するものではない。

1株当たりNAVと株価

(円)

■ 株価

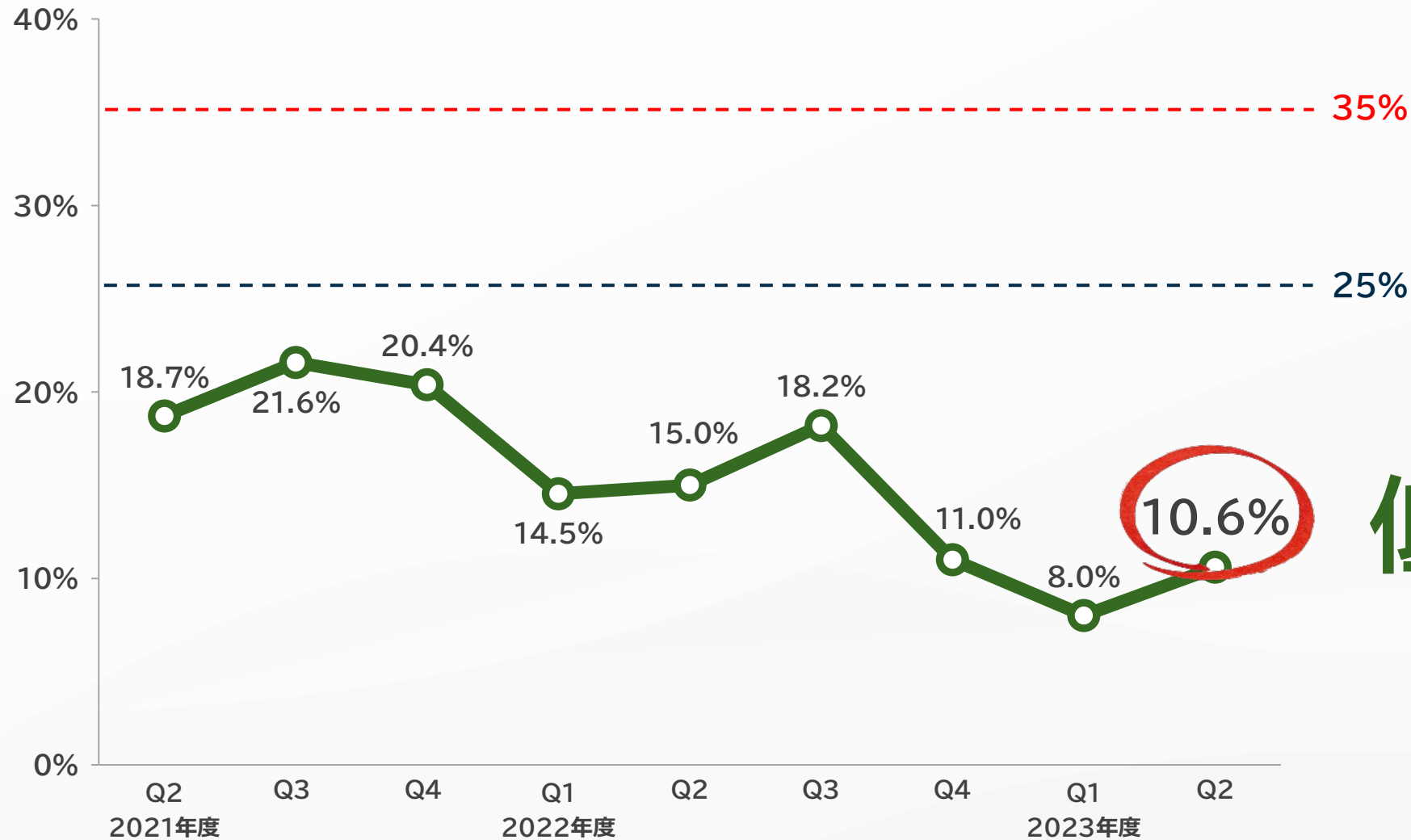
■ 1株当たりNAV



NAVの詳細は、Appendix「NAV・LTVの定義及び算出方法(2023年6月末時点)」 「NAV・LTVの定義及び算出方法(2023年9月末時点)」を参照
1株当たりNAV = NAV ÷ 発行済株式総数(自己株式を除く)

LTVの推移

アセットバック・ファイナンス除く

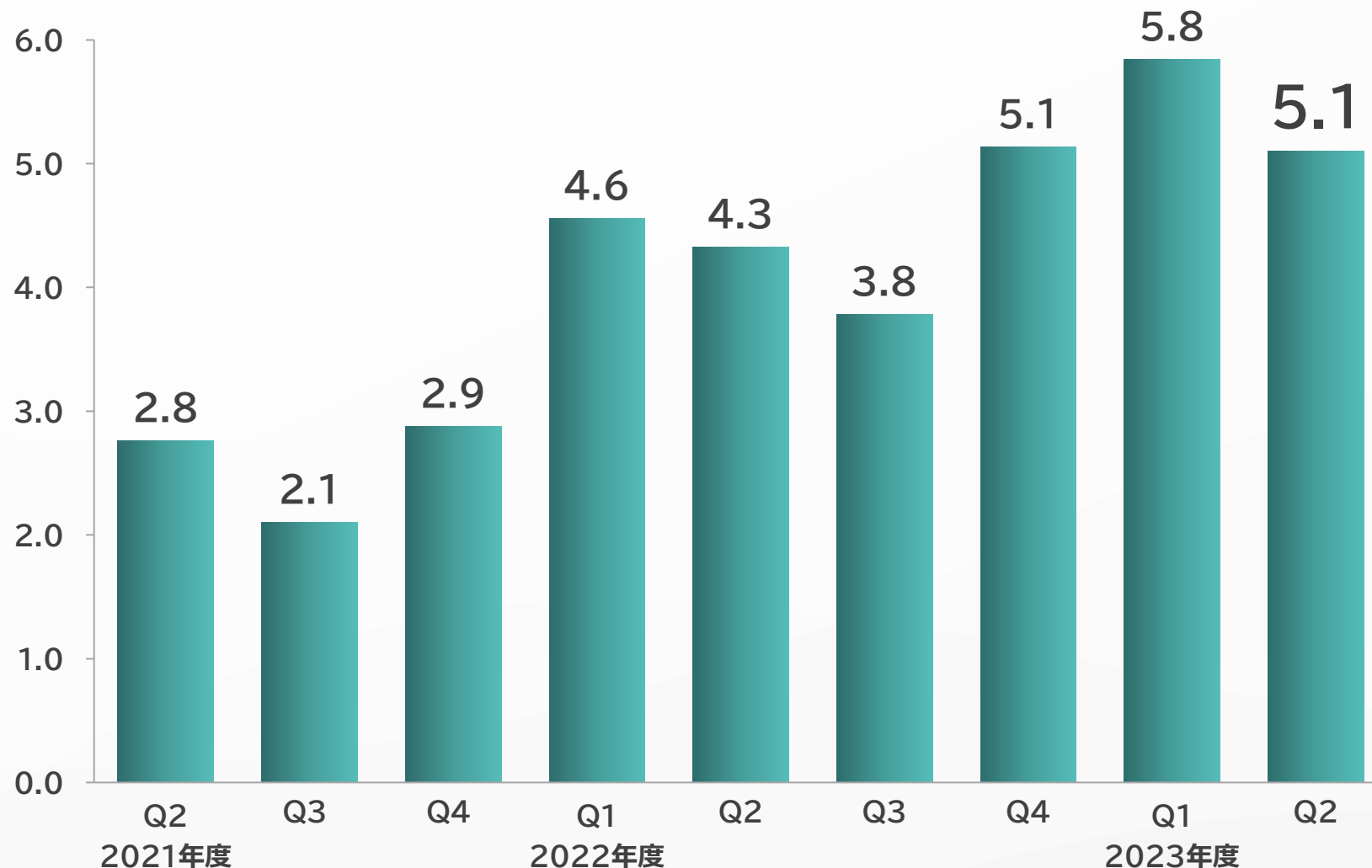


低水準で推移

各四半期末時点
LTVの算出方法については、各四半期決算説明会プレゼンテーション資料に記載の「NAV・LTVの定義及び算出方法」を参照

手元流動性の推移

(兆円)



高水準を維持

各四半期末時点
手元流動性 = 現金及び現金同等物 + 流動資産に含まれる短期投資 + 国債投資 + コミットメントライン未使用枠。SBG単体ベース(SB Northstarを除く。ただし現金及び現金同等物は含む。)

連結業績

(億円)

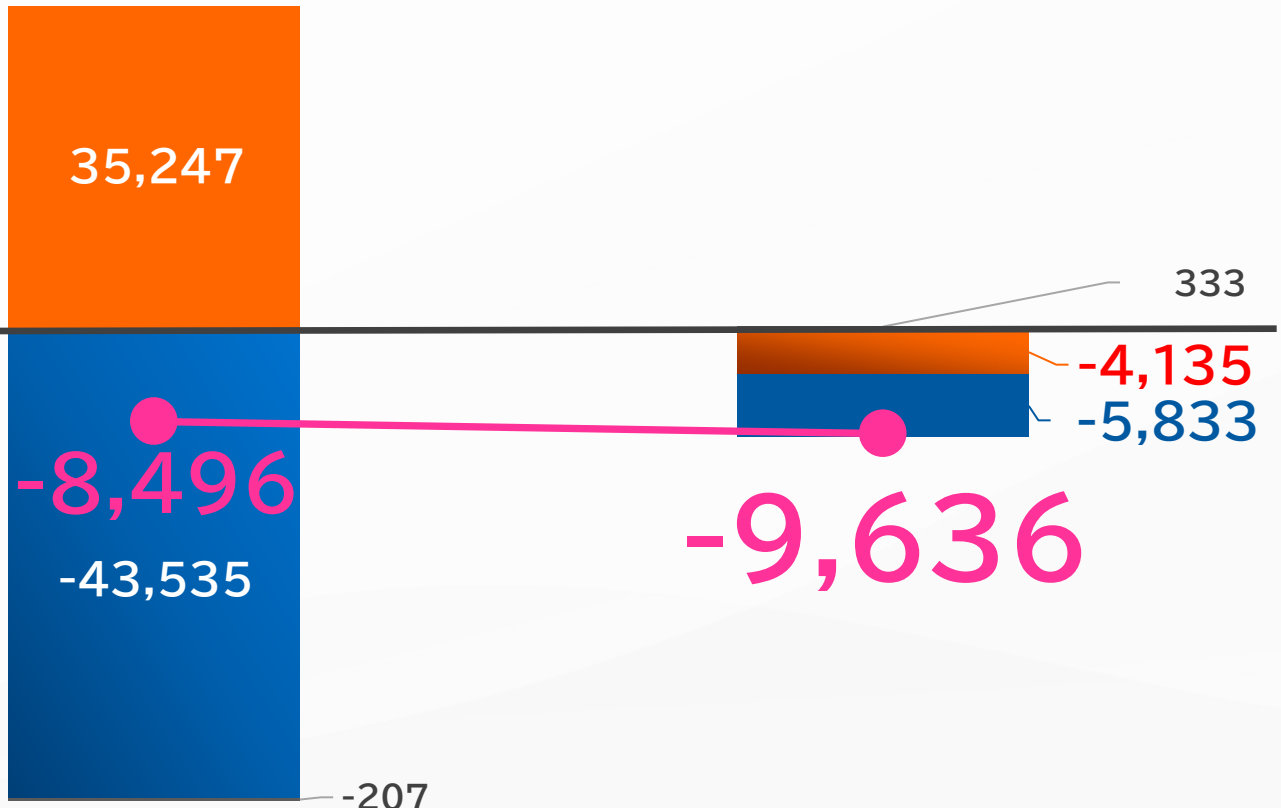
	2022年度 上期	2023年度 上期	増減額
売上高	31,825	32,271	+446
投資損益	-8,496	-9,636	-1,140
税引前利益	2,926	-9,074	-12,001
純利益	-1,291	-14,087	-12,796

投資損益

(億円)

- 持株会社投資事業
- SVF事業
- その他
- 連結

主にアリババ株式先渡売買契約
決済関連利益



SVFは 損失額縮小

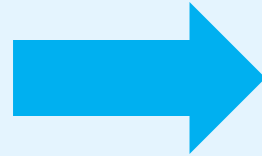
2022年度
上期

2023年度
上期

税引前利益

SVF外部投資家持分(純利益にも同額影響)

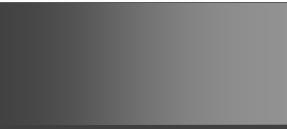
10,187億円
プラス影響



2,263億円
マイナス影響

(億円)

2,926



2022年度
上期



-9,074

2023年度
上期

SVF外部投資家
持分変動が
1.2兆円の悪化要因

1

会社概要

2

FY23上期業績

3

アームのIPO

4

AI投資

5

財務戦略

6

サステナビリティ

2023年9月14日

arm

Nasdaq Global Select Marketに上場

今年最大の相場

アーム IPO サマリー

9月14日

Nasdaq Global Select Marketに上場

\$5,123M

本売出しによるSBGの手取金

1ADS当たり

\$51.00

公開価格 - 仮条件(\$47.00~\$51.00)の上限

\$52B

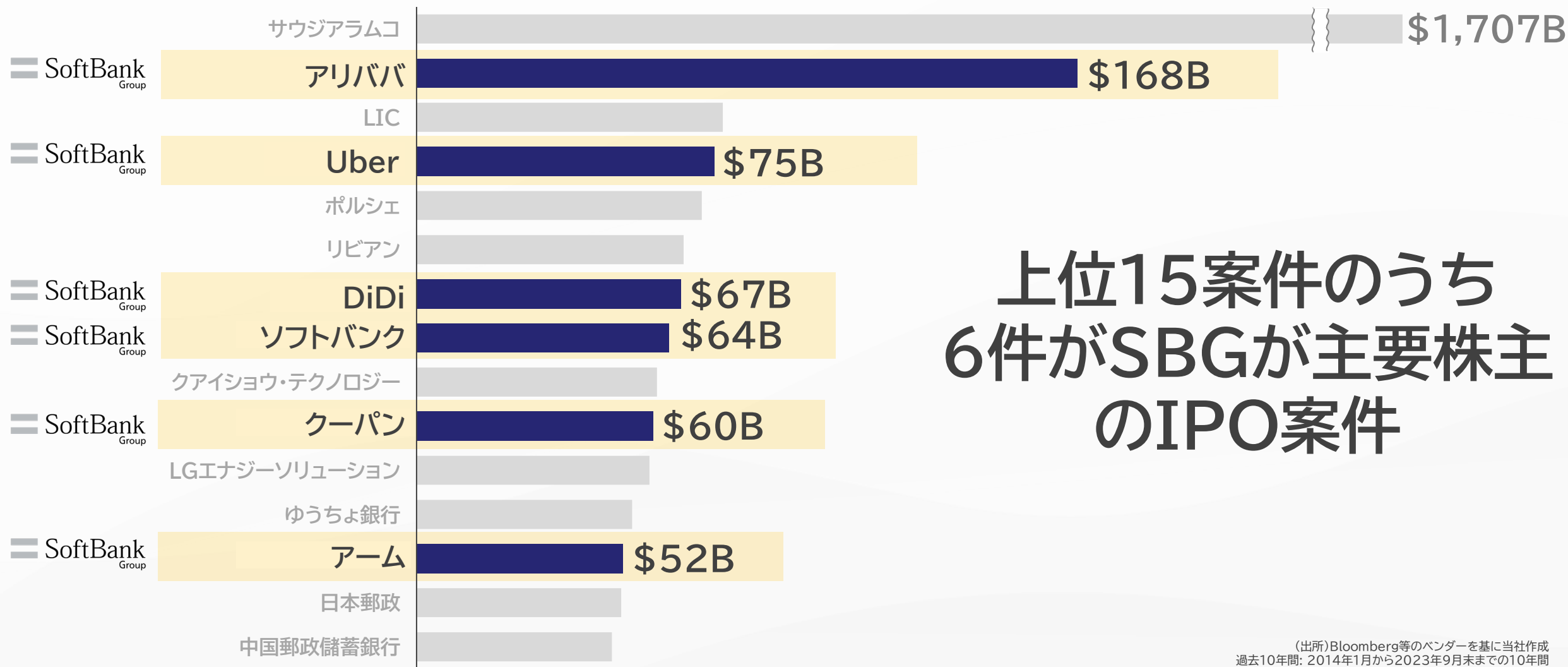
上場時 時価総額

90.0%

IPO後のSBGによる保有株式割合

上場時時価総額: 2023年9月末のアームの発行済株式総数(希薄化前、自己株式を除く)1,025,234,000株に1ADS当たり公開価格を乗じて算出
IPO後のSBGによる保有株式割合: 2023年9月末のアームの発行済株式総数(希薄化前、自己株式を除く)1,025,234,000株に基づき算出
アームの新規株式公開の詳細については、2023年9月19日付当社プレスリリース「Armによる新規株式公開の引渡完了(クロージング)及び引受人によるADS追加取得オプションの全行使に関するお知らせ」を参照

IPO時 時価総額グローバル上位15案件 (過去10年間)

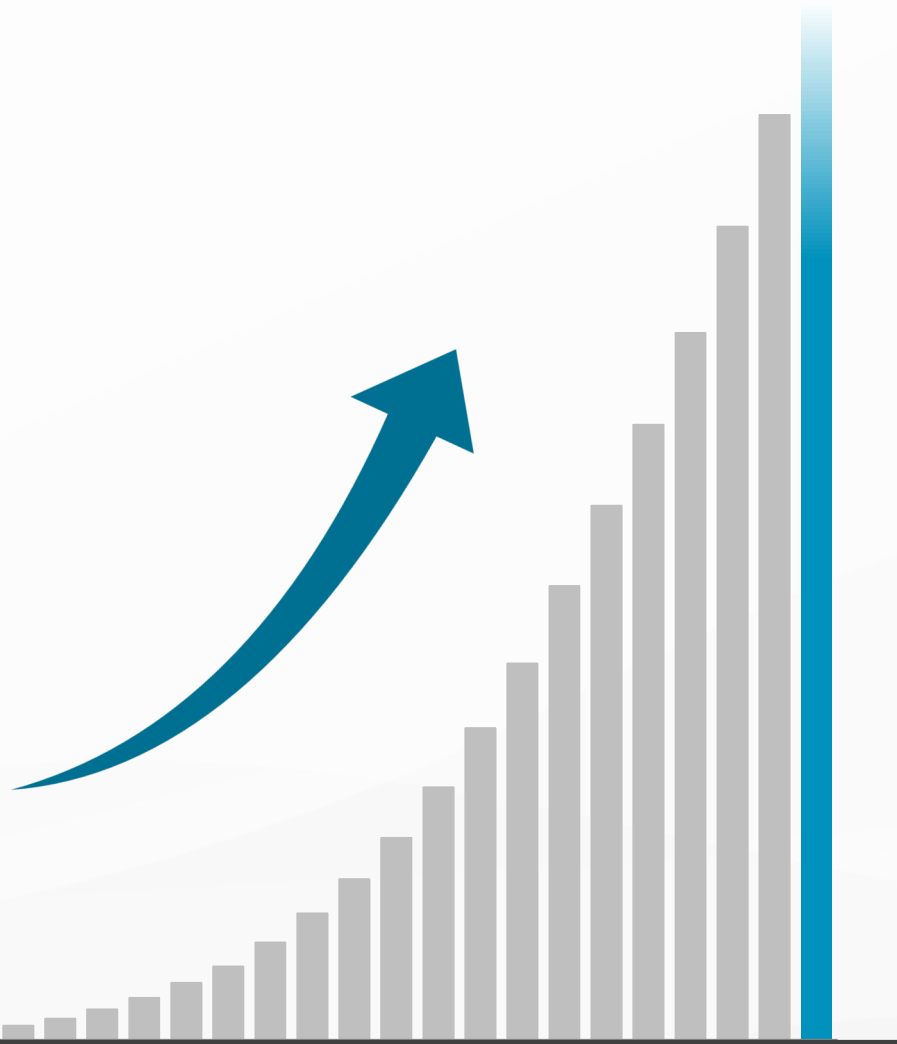


上位15案件のうち
6件がSBGが主要株主
のIPO案件

(出所) Bloomberg等のベンダーを基に当社作成
過去10年間: 2014年1月から2023年9月末までの10年間
LIC: ライフ・インシュアランス・コーポレーション・オブ・インディアの略称
主要株主: 上場時時点でSBGおよび子会社が株主として関与

アームベースチップ出荷数

(億個)



2023年6月までの累計出荷実績

2,700億個+

2023年1~6月出荷実績

139億個

1990











2023 (暦年)

アームベースチップの出荷実績は、出荷の発生から1四半期遅れでライセンスから報告を受けるため、本頁における出荷実績は、2023年6月までの出荷実績を掲載

(出所) Arm

成長市場における収益機会



	市場シェア (2020 ~ 2022)	市場規模 (2025予)	市場規模 年平均成長率 (2022 ~ 2025予)
 モバイル	 >99% >99%	\$36B	6%
 クラウド	 7% 10%	\$28B	17%
 自動車	 33% 41%	\$29B	16%
 IoT 組込機器	 58% 65%	\$50B	7%
 全ての収益機会	 42% 49%	\$247B	7%

(出所) Arm F-1
 市場シェア: 金額ベース
 IoT: 産業用IoTおよび組み込みプロセッサ
 全ての収益機会: 上記の表で表示されていない「その他モバイル」、「コンシューマーエレクトロニクス」、「ネットワーク機器」、および「その他インフラ」を含む

消費者向け端末

モバイル機器
ノートパソコン、タブレット端末
デジタルTV、VR、
ウェアラブルデバイス等

自動車

先進運転支援システム
自動運転
デジタルコックピット等

インフラ

クラウド/サーバー
5G無線ネットワーク機器等

IoT

製造装置、
都市インフラ管理システム
ビル管理設備等

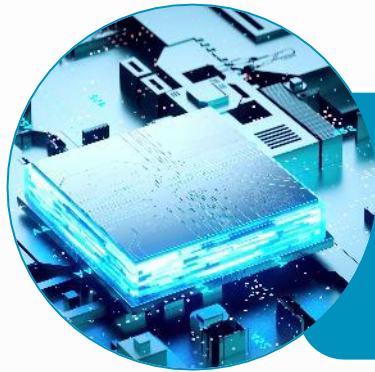
アームのターゲット市場



業界リーダーとの戦略が進展



Googleの最新スマートフォンPixel 8は
アームの最新世代テクノロジーArmv9ベース



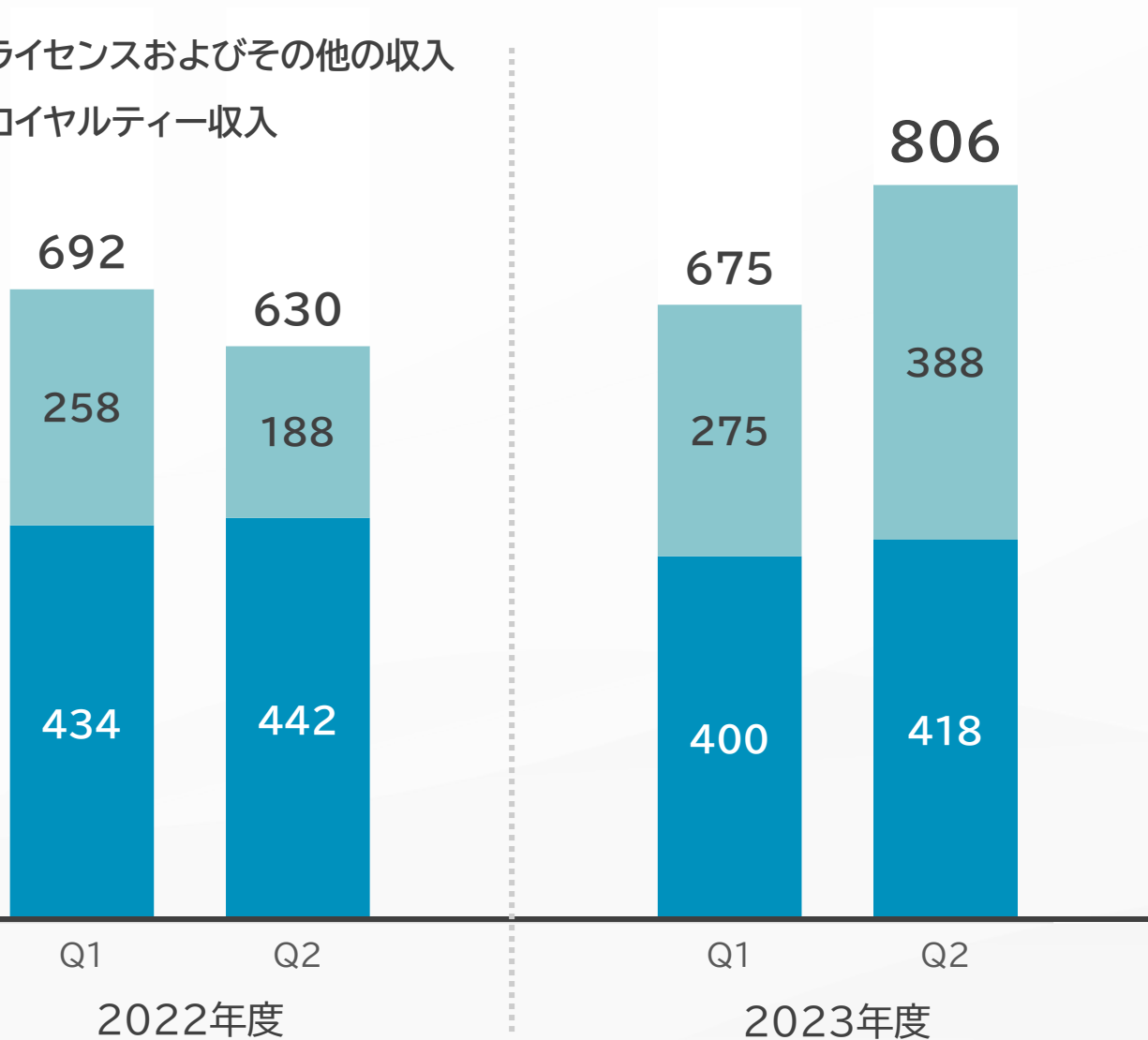
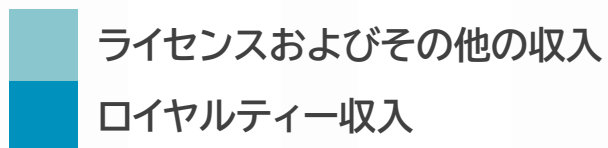
NVIDIA、アームベース「GH200 Grace
Hopper Superchip」の第2世代を発表



ルネサスエレクトロニクス、自動運転向けの次
世代チップにアームテクノロジーの採用を発表

四半期売上高（米国会計基準）

(\$ M)

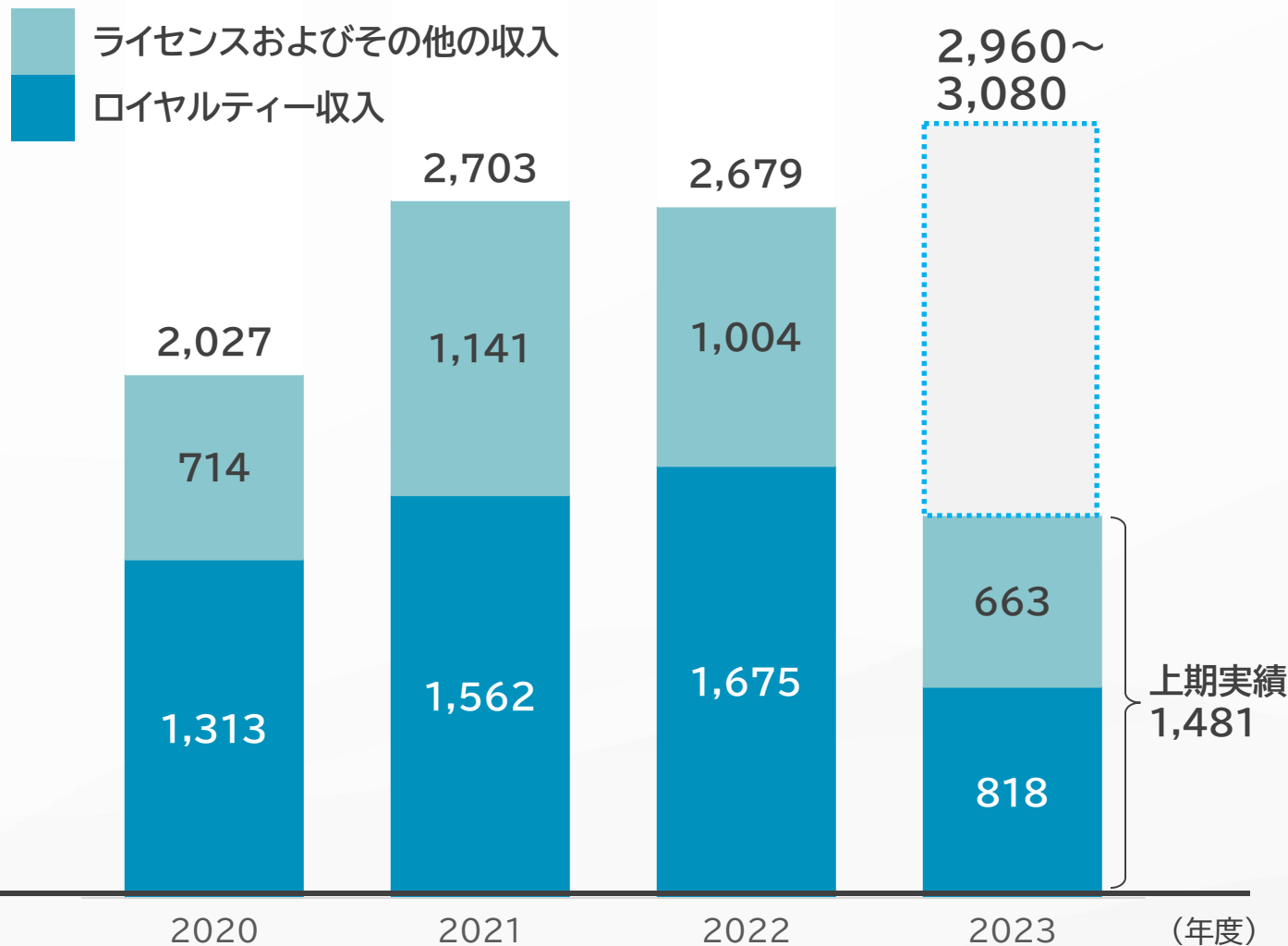


上場後初の四半期は
過去最高の売上に

高額ライセンス契約
を複数締結

年間売上高（米国会計基準）

(\$ M)

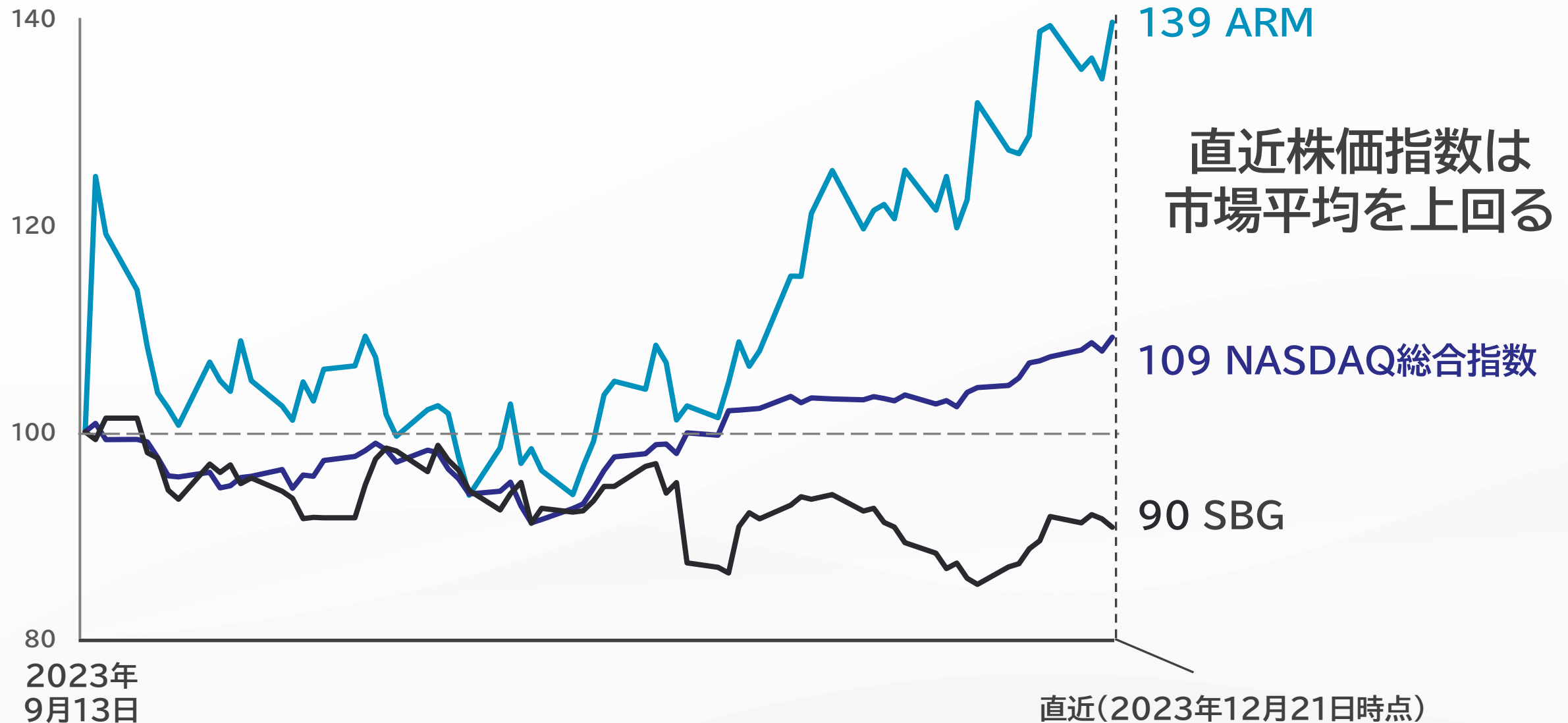


会社ガイダンス

半導体市場は
弱含むも、
アームの売上高は
堅調に推移

（出所）Arm
詳細は、Arm Investor Relations (<https://investors.arm.com/>)を参照

アーム上場後 株価動向



直近株価指数は
市場平均を上回る

ARMは公開価格(1ADS=\$51)を、NASDAQ総合指数とSBGは2023年9月13日時点の終値を100として指数化。Bloombergを基に当社作成

1

会社概要

2

FY23上期業績

3

アームのIPO

4

AI投資

5

財務戦略

6

サステナビリティ

30年以内に起こるビッグデータ

SINGULARITY



データをAIで解析し
推論する時代がやってくる
チップは根源的役割を持ち
人間の知能を超えることになる

AI投資戦略

SBGの 投資戦略

II

AIへの 投資戦略

SBGからの投資

- より長期での価値創造
- 戦略投資
- 柔軟な持分比率
- テーマ性のある集中投資



SVFからの投資

- 投資期間は最長14年
- 純投資
- マイノリティ投資
- 分散投資

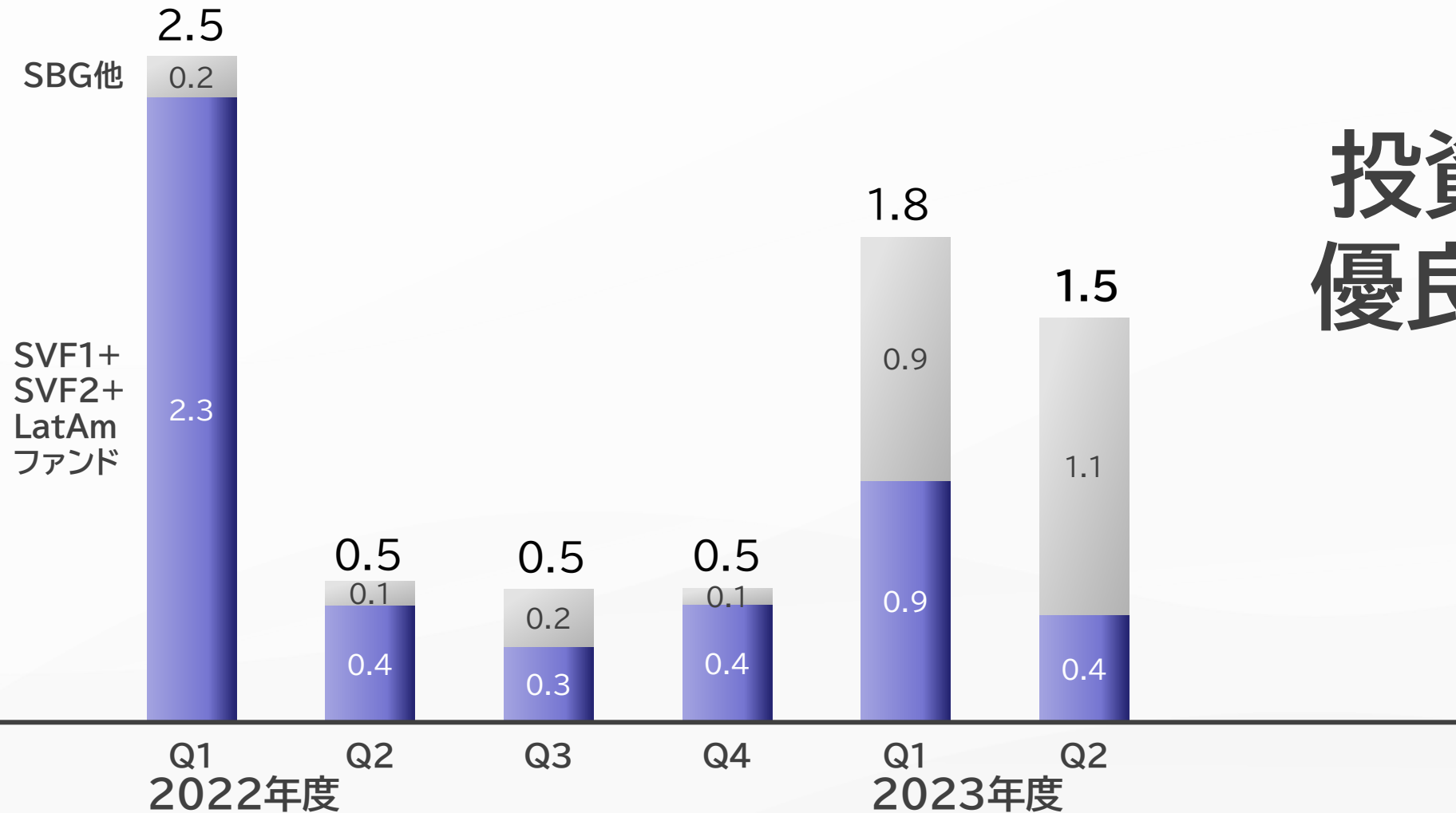
SVF1

SVF2

LatAm

投資額の推移 (SVF1+SVF2+LatAmファンド+SBG他)

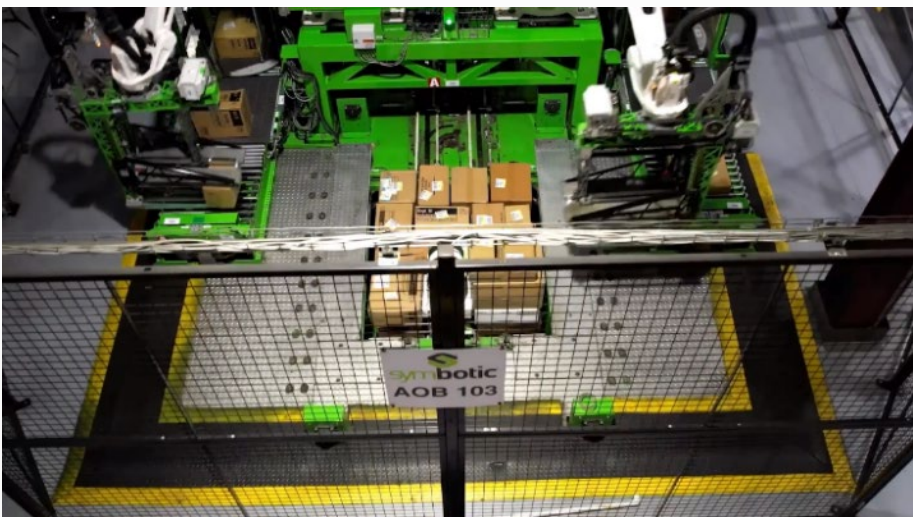
(\$ B)



投資は再開、
優良案件発掘
に注力

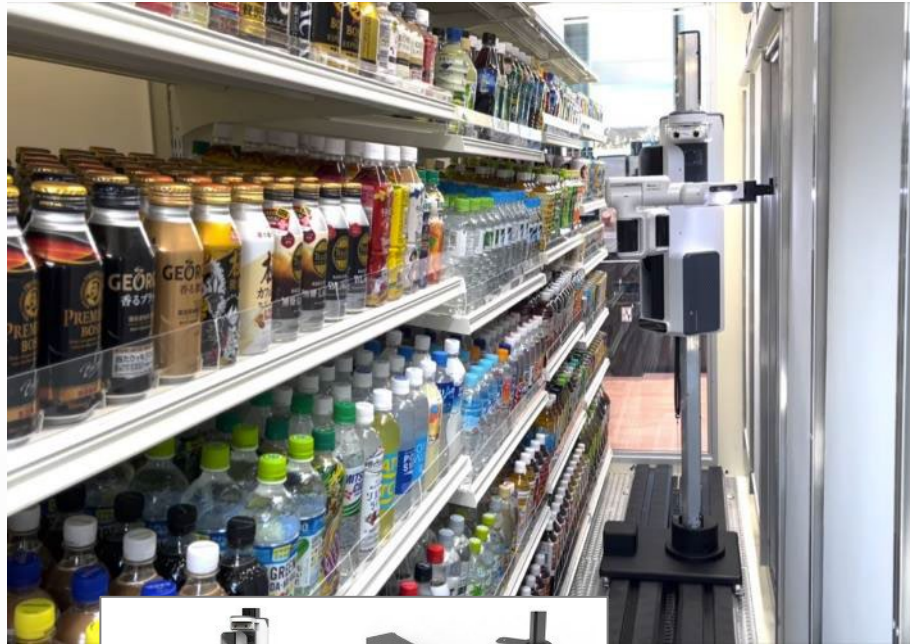
SBG他投資額: SBGおよび主な100%子会社からの投資額(米国債への投資を除く)。グループ内取引に伴う投資額を除く。
SVF投資額: 新規および既存投資先への追加投資の合計。株式交換を含む。SBGからSVFへの移管に伴う投資額を除く。

小売業者や流通業者向けに倉庫の自動化プラットフォームを提供



- 2007年に設立、2022年にNASDAQ上場
- AI搭載ロボット技術プラットフォームで倉庫の自動化を革新
- 市場規模\$500B超のWarehouse-as-a-ServiceをターゲットにGreenBox JVを立ち上げ
- 2022年度売上高\$593.3M(前年度比136%増)

遠隔操作・AIロボットの開発およびそれらを使用した事業を展開



- 2017年設立
- コンビニのバックヤードで飲料補充を行うAIロボット事業の展開
- 国内ではファミリーマートと300店舗への導入を契約済
- 店舗スタッフが行う、1店舗当たり500～1,000本の飲料陳列を同社製ロボットが完全に代替

自社開発したAIを搭載した高度な自動運転技術の活用により 顧客のサプライチェーンと運送ルート、エネルギー効率を最適化



- SBGの支援により2023年初頭に設立
- AIを搭載した自動運転技術により、トラック業界の積年の課題解決を軽減
 - ✓ ドライバー不足
 - ✓ 稼働時間の効率化
 - ✓ 安全性の懸念
 - ✓ 運送コスト
 - ✓ 排出ガス
- 米国の本社と15の州で170人の従業員を雇用

用途に合わせたカスタム地図アプリや位置情報の技術を提供



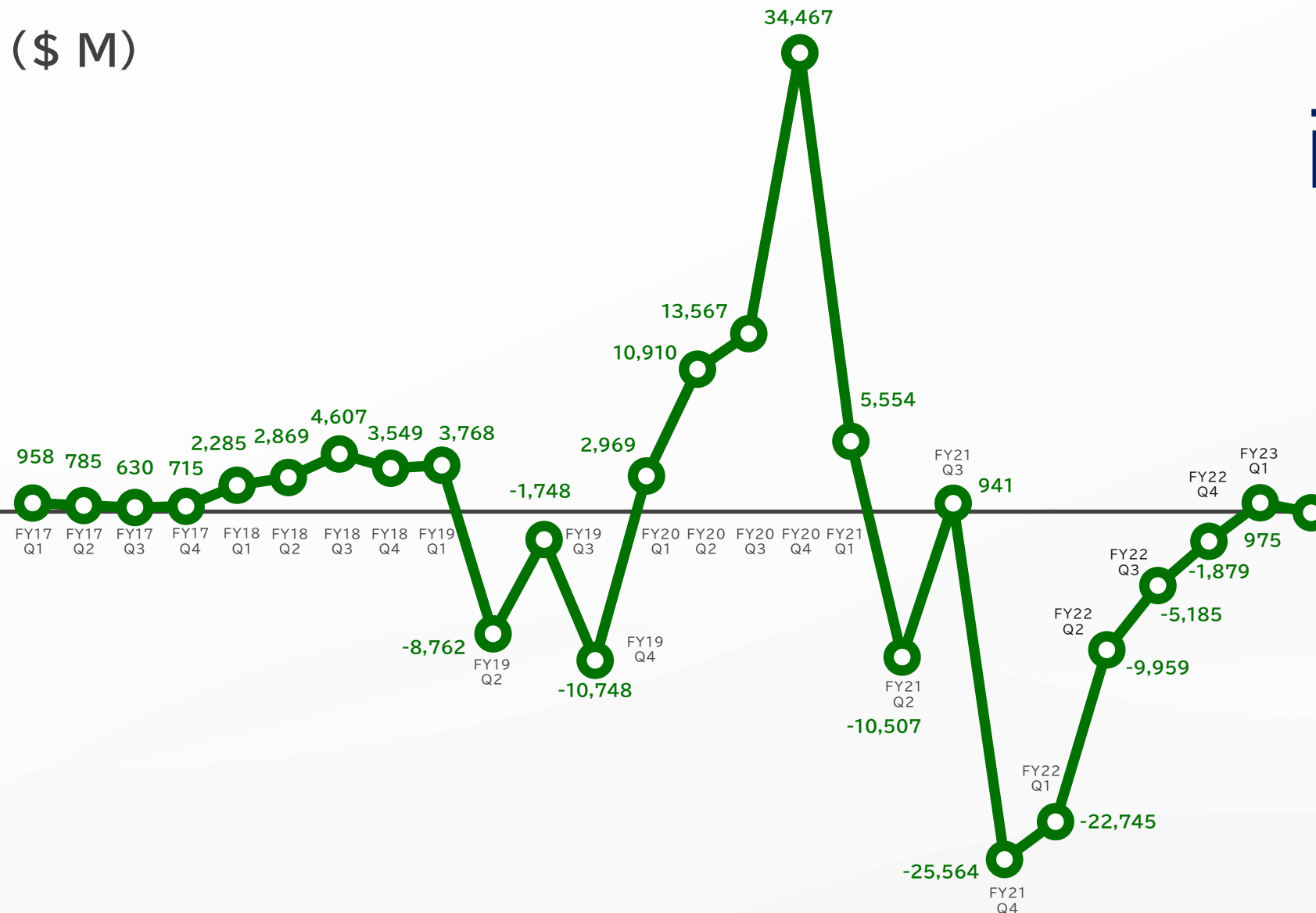
- 2013年設立
- AIを活用した位置情報・ナビゲーション情報を提供、7億人以上のユーザーが同社の地図を利用
- トヨタ、GM、BMW、リヴィアン*がカーナビに採用
- 配送ルート最適化、リアルタイム車両運行管理の物流ソリューションも提供

※米国の電気自動車メーカー

SVF: 投資損益 (四半期)

USDベース
(SVF1+SVF2+LatAmファンド)

(\$ M)



直近2四半期 連続の黒字

FY23Q2
232

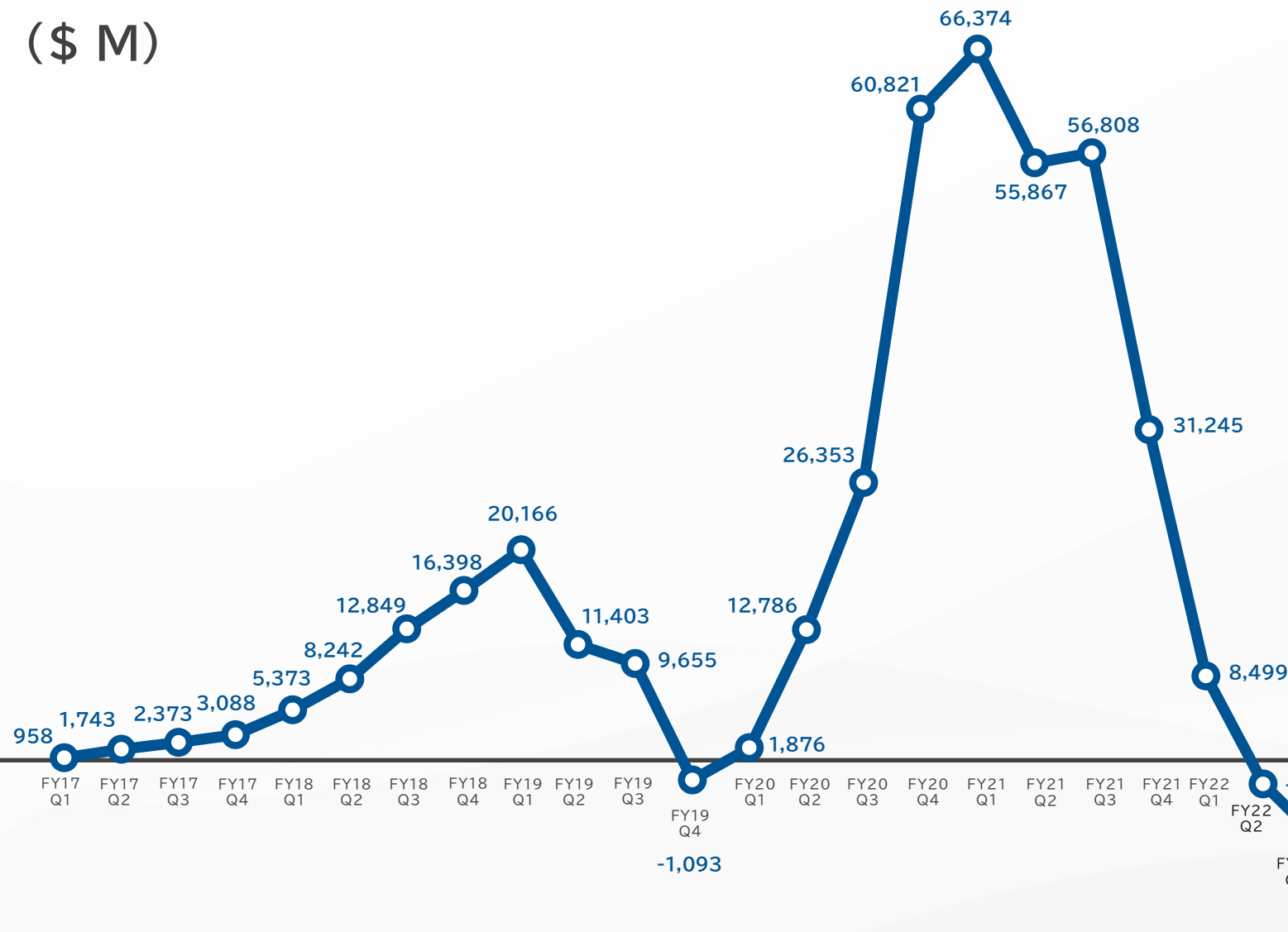
当社子会社(主にアーム)への
投資に係る投資損益を含む
(連結ベースでは消去)

投資損益(四半期): SVF1, SVF2およびLatAmファンドからの投資損益の四半期計上額
(当社連結財務諸表の作成における為替換算前、デリバティブ関連損益含む、外部投資家持分および税金等控除前)

SVF: 投資損益 (累計)

USDベース
(SVF1+SVF2+LatAmファンド)

(\$ M)



累計投資損失は
改善続く

FY23Q2
-7,316

投資損益(累計):SVF1、SVF2およびLatAmファンドからの投資損益の2017年度Q1からの累計上額
(当社連結財務諸表の作成における為替換算前、デリバティブ関連損益含む、外部投資家持分および税金等控除前)

株式公開実績と今後のパイプライン

株式公開実績(活動開始来累計)

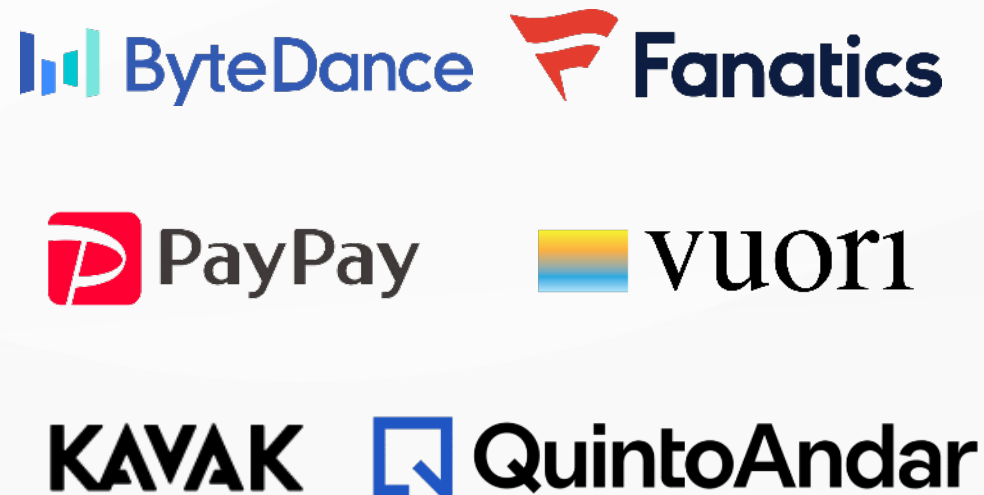
50件



強固なレイトステージ投資のポートフォリオ

\$29B+ レイトステージ投資の公正価値

主な投資先



注記に関しては、FY23Q2決算資料参照

1

会社概要

2

FY23上期業績

3

アームのIPO

4

AI投資

5

財務戦略

6

サステナビリティ

2023年度の財務戦略

財務方針の堅持

「守り」「攻め」
両面に対応
できる財務運営

財務方針の堅持

1 通常時 **LTV25%未満** で運用（異常時でも上限35%）

2 少なくとも **2年分の社債償還資金** を保持

3 SVFや子会社から **継続的な配当収入** を確保

「守り」「攻め」に対応できる財務運営

更なるダウンサイド
にも耐える「守り」

財務の安全性を
維持しつつ
情報革命を牽引する
投資は実行

通常時 LTV25%未満で運用
(2023年9月末 LTV=10.6%)

少なくとも2年分の社債償還資金を保持
(2023年9月末 手元流動性=5.1兆円)

キャピタルアロケーション



新規投資



株主還元*



財務方針
(財務の安全性)

バランスを
常に考慮

* NAVディスカウント水準も考慮事項



生命体が生まれて
40億年の歴史の中で、
この10年間に
シンギュラリティは来る

我々はまさにその10年の
クロスオーバーの時にいる

現在

10年以内

20年以内

AI



GPT-4
(医師免許試験 合格)

全人類の叡智
10倍

全人類の叡智
10,000倍

医師免許試験: USMLE (United States Medical Licensing Examination) の模擬試験における GPT-4 (5 ショット) のスコアで評価
(出典) OpenAI, Microsoft "Capabilities of GPT-4 on Medical Challenge Problems"



学習

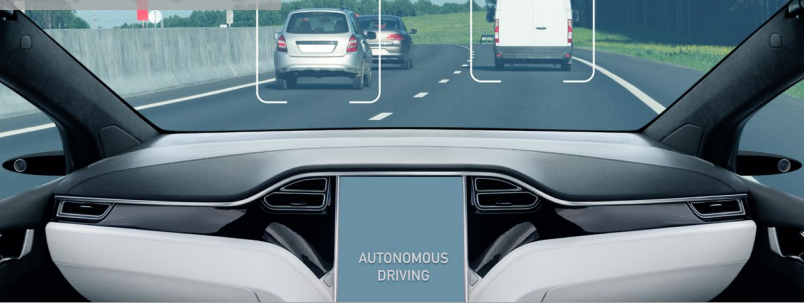


推論



AGIはあらゆる産業を根底から変革
(リアルタイム学習・推論)

モビリティ



自動運転で事故のない世界

ヘルスケア



遺伝子解析で個別最適な医療

サービス



より人間らしいカスタマーサービス

ファイナンス



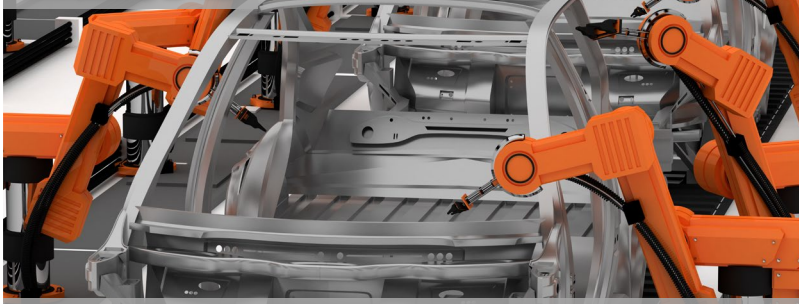
最適な投資の実行

物流



あらゆるデータを活用した需給マッチング
秒単位でのジャストインタイム

生産現場



自動化で効率化された世界

AGIは全産業を変革

A photograph of Masayoshi Son, CEO of SoftBank, speaking at a conference. He is wearing a grey suit jacket over a black turtleneck. He is gesturing with his right hand, which is clenched into a fist. The background is a blue screen with abstract patterns.

ソフトバンクを
世界で最もAIを
活用する
グループにしたい

1

会社概要

2

FY23上期業績

3

アームのIPO

4

AI投資

5

財務戦略

6

サステナビリティ

経営理念とサステナビリティ

情報革命で人々を幸せに

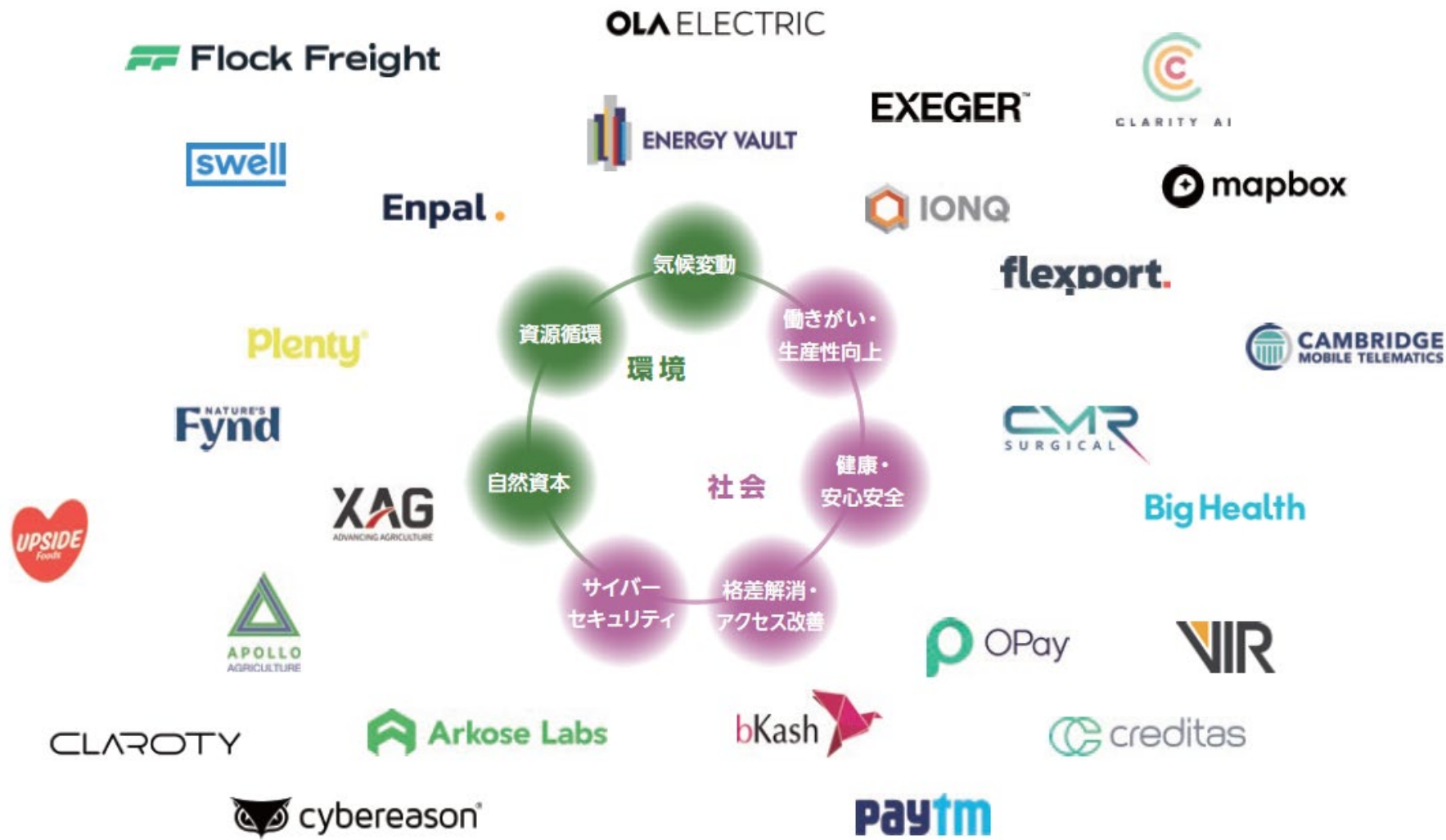
経営理念そのものに
サステナビリティへの想い



IT、AIへの投資を通じて
地球規模の課題解決に貢献

投資を通じた課題解決

様々な投資先が、環境・社会課題の解決に取り組む



サステナビリティの取り組み

責任あるAI



米国のNGO団体Responsible Innovation Labsが提唱する「責任あるAIへの自主的な取り組み」へSVFの運営会社*が署名

* SoftBank Investment Advisers(UK) Limited

ESGの評価指標

MSCI
ESG RATINGS



米国の著名インデックス(指標)提供会社
MSCIのESG評価において2023年11月に
「AA」評価を獲得

サステナビリティの取り組み

2022年度のハイライト

温室効果ガス削減にむけて

環境グループ目標



2030年度までに
カーボンニュートラル達成

ソフトバンクグループ

カーボンニュートラル達成

ソフトバンク

基地局使用電力の72.1%再エネ化

アーム

グループ使用電力の100%再エネ化

多様性への取り組み

ソフトバンクグループ

女性社員比率 45%

女性管理職比率 25%

男女の賃金差異 52%

男性社員育児休業取得率 88%

ガバナンスへの取り組み*

ソフトバンクグループ

社外取締役比率 56%

社外監査役比率 100%

* 2023年6月21日現在

情報革命で人々を幸せに



免責事項

本資料は、ソフトバンクグループ株式会社(以下「SBG」)及びその子会社(以下SBGと併せて「当社」)並びに関連会社(以下当社と併せて「当社グループ」)に関する関連情報を提供するものであり、すべての法域において、いかなる証券の購入又は応募の申込みを含む、いかなる投資勧誘を構成又は形成するものではありません。

また、本資料は、Arm Holdings plcが発行する証券の購入または応募の申込み、またはその勧誘を構成するものではありません。あらゆる証券の購入または応募の申込み、またはその勧誘は、1933年米国証券法(改正法も含む)およびその他の適用証券取引関連法令に従い登録制に基づき行われます。

本資料には、当社グループの推定、予測、目標及び計画を含む当社グループの将来の事業、将来のポジション及び業績に関する記述など当社グループの将来の見通しに関する記述、見解又は意見が含まれています。将来の見通しに関する記述には、特段の限定を付すことなく、「目標とする」、「計画する」、「確信する」、「希望する」、「継続する」、「期待する」、「目的とする」、「意図する」、「だろう」、「かもしれない」、「であるべきである」、「したであろう」、「できた」、「予想する」、「推定する」、「企図する」若しくは類似する内容の用語若しくは言い回し又はその否定形などが含まれています。本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、当社グループが本資料の日付現在において入手可能な情報を踏まえた、当社グループの現在の前提及び見解に基づくものです。これら将来の見通しに関する記述は、当社グループのメンバー又はその経営陣による将来の業績を保証するものではなく、当社グループのビジネスモデルの成功、当社グループの資金調達力及びその資金調達条件の影響、SBGの重要な経営陣に関するリスク、当社グループの投資活動に関する又はこれに影響を与えるリスク、SBファンド(下記で別途定義)並びにその投資、投資家及び投資先に関するリスク、ソフトバンク株式会社及びその事業の成功に関するリスク、法令・規制・制度などに関するリスク、知的財産権に関するリスク、並びに訴訟を含むこれらに限られない既知及び未知のリスク、不確実性その他要因を含み、これらの要因により、実際の当社グループの実績、業績、成果又は財務状態は、将来の見通しに関する記述において明示又は黙示されている将来の実績、業績、成果又は財務状態と著しく異なる可能性があります。当社グループの実績、業績、成果又は財務状態に影響を与える可能性のあるこれら及びその他の要因については、SBGのホームページの「事業等のリスク」(https://group.softbank/ir/investors/management_policy/risk_factor)をご参照下さい。当社グループ及びその経営陣は、これら将来の見通しに関する記述に明示されていることを保証するものではなく、実績、業績、成果又は財務状態は、予想と著しく異なる可能性があります。本資料を閲覧する者は、将来の見通しに関する記述に過度に依拠してはなりません。当社は、本資料に記載される将来の見通しに関する記述その他当社が行う将来の見通しに関する記述を更新する義務を負いません。過去の業績は、将来の実績を示すものではなく、本資料に記載される当社グループの実績は、当社グループの将来の実績の予測若しくは予想の指標となるものではなく、又はこれを推定するものでもありません。

本資料に記載されている当社グループ以外の企業(SBファンドの投資先を含みますが、これに限られません。)に関わる情報は、公開情報等から引用したものであり、当社は、情報の正確性又は完全性について保証するものではありません。

商標について

本資料に記載されている企業、製品及びサービスの名称は、各企業の商標又は登録商標です。

重要なお知らせ—SBGの普通株式の取引、スポンサーなしADR(米国預託証券)に関する免責事項

SBGの普通株式の売買を希望する場合には、当該普通株式が上場され、主に取引が行われている東京証券取引所において売買を行うことを推奨します。SBGの開示は、スポンサーなしADR(以下「ADR」)の取引の促進を意図するものではなく、ADRの取引判断を行う際にこれに依拠すべきではありません。SBGは、SBGの普通株式に関するスポンサーなしADRプログラムの設立又はそれに基づき発行されるADRの発行若しくは取引について、過去及び現在において、参加、支援、推奨その他同意を行ったことはありません。SBGは、ADR保有者、銀行又は預託機関に対して、(i)SBGが1934年米国証券取引所法(以下「証券取引所法」)で定めるところの報告義務を負うこと、又は、(ii)SBGのホームページに、SBGが証券取引所法ルール12g3-2(b)に従って証券取引所法に基づくSBGの普通株式の登録の免除を維持するために必要な全ての情報が継続的に掲載されることを表明するものではなく、また、当該者又は機関は、そのように信じてはなりません。適用ある法が許容する最大限の範囲において、SBG及び当社グループは、SBGの普通株式を表象するスポンサーなしADRIに関連して、ADR保有者、銀行、預託機関その他企業又は個人に対するいかなる義務又は責任を否認します。

上記の免責事項は、ソフトバンク株式会社やLINEヤフー株式会社などの、スポンサーなしADRプログラムの対象であるか又は将来対象となる可能性のある当社グループの証券に同様に適用されます。

本資料に記載されるファンド情報に関するお知らせ

本資料は、情報提供を目的として提供されるものであり、法律上、税務上、投資上、会計上その他の助言又はSB Global Advisers Limited(以下「SBGA」)、SB Investment Advisers (UK) Limited(以下「SBIA」)及びそれらの関係会社を含むSBGの子会社(以下併せて「SBファンド運用会社」)により運用されるいずれかのファンド(文脈に応じて、パラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて「SBファンド」)のリミテッド・パートナーシップ持分又は同等の有限責任持分の販売の申込み又は申込みの勧誘を行うものではなく、また、いかなる方法でもそのように依拠してはなりません。疑義を避けるために付言すると、SBファンドは、他のファンド同様、SBIAとその関係会社によって運用されているSoftBank Vision Fund L.P.(文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ビジョン・ファンド1」)、SBGAとその関係会社によって運用されているSoftBank Vision Fund II-2 L.P.(文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ビジョン・ファンド2」)及びSBGAとその関係会社によって運用されているSBLA Latin America Fund LLC(文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ラテンアメリカ・ファンド」)を含みます。

SBファンド(ビジョン・ファンド1及びビジョン・ファンド2並びにラテンアメリカ・ファンドを含む)、SBファンド運用会社、SBファンド運用会社により運用される後続又は将来のファンド、SBG又はそれぞれの関係会社のいずれも、本資料に記載されている情報の正確性又は完全性について、明示又は黙示であるとかかわらずこれを表明又は保証するものではなく、また、本資料に記載されているパフォーマンスに関する情報はSBファンドその他本資料に言及される企業の過去若しくは将来のパフォーマンス又はSBファンド運用会社により運用される後続ファンド、将来組成されるファンドの将来のパフォーマンスについての確約又は表明として依拠してはなりません。

SBファンドその他本資料に言及される企業のパフォーマンスに関する情報は、背景説明のみを目的として記載されるものであり、関連するSBファンド、本資料に言及されるその他のファンド又はSBファンド運用会社により将来運用されるファンドの将来のパフォーマンスを示すものとして考慮されるべきではありません。SBファンドの特定の投資対象に関する情報への言及は、それに含まれる範囲において、関連するSBファンド運用会社の投資プロセス及び運用方針を説明することのみを目的として述べられたものであり、特定の投資対象又は証券の推奨として解釈してはなりません。SBファンドのパフォーマンスは各個別の投資においてそれぞれ異なる可能性があり、個別に言及した取引のパフォーマンスは、必ずしも全ての適用される従前の投資のパフォーマンスを示唆するものではありません。本資料において記載及び説明される特定の投資は、関連するSBファンド運用会社が行う全ての投資を示すものではなく、本資料において記載及び検討される投資が利益を生んだ又は将来利益を生むと仮定すべきではありません。

本資料に記載されるSBファンドのパフォーマンスは、ポートフォリオ投資の未実現の評価額に基づくものです。未実現の投資評価額は、関連するSBファンド運用会社がそれぞれ特定の投資に関する状況に基づき合理的とみなす前提及び要因(例えば、評価日現在における類似の会社の平均株価収益率その他勘案事項等を含みます。)に基づくものです。しかしながら、未実現の投資評価額が本資料に記載されている金額又は本資料に記載されているリターンを算定するために用いられる金額で実現されるという保証はありません。また、かかる実現に関連する取引費用が未知であるため、当該取引費用は、かかる算定に含まれません。未実現額の見積りは、常に化する多くの不確定要素の影響を受けます。関連するSBファンドの未実現の投資に対する実際の実現リターンは、いくつか要因がある中で特に、将来の運用実績、処分時の資産価格及び市況、関連する取引費用並びに売却の時期及び方法によって決まるものであり、これらの要因は全て、関連するSBファンド運用会社の評価の根拠となった前提及び状況と異なる可能性があります。

過去のパフォーマンスは、必ずしも将来の実績を示すものではありません。SBファンド又はSBファンド運用会社により運用される将来のファンドのパフォーマンスは、本資料に示されるパフォーマンス情報よりも大幅に低くなる可能性があります。各SBファンド又は関連するSBファンド運用会社により運用されるいずれか将来のファンドが、本資料に示される実績と同等の実績を達成するという保証はありません。

本資料に記載される第三者のロゴ及びベンダー情報は、説明目的のためにのみ提供されるものです。かかるロゴの記載は、かかる企業又は事業との提携又はその承認を示唆するものではありません。SBファンド運用会社、SBファンドのポートフォリオ会社、SBファンド運用会社により運用される将来のファンドの将来のポートフォリオ会社、又はSBGが、本資料に記載されるロゴを有する企業又は事業のいずれかと今後業務を行うという保証はありません。

SBGA及びSBIAは、ビジョン・ファンド1、ビジョン・ファンド2及びラテンアメリカファンドの運用に関して、相互にSBGからそれぞれ別個独立した業務プロセスを採っています。SBGA又はSBIAによって運用されるSBファンドは、それぞれSBGA単独又はSBIA単独で運用されています。